

研究主題

危険を予測し、回避できる子の育成

～ 生きる力を育む安全教育の充実 ～

世田谷区立三軒茶屋小学校

目指す児童像

学んだことを活用し、安全に行動できる子

1 主題設定の理由

日常生活で想定される様々な事故・犯罪・災害等から自らの命を守るためには、安全に関する知識に基づき、自ら考え判断し、行動する力が必要である。本校の児童は、大人から教えられたことを素直に受け止め身に付けようとすることから、学年毎の指導計画に基づき、発達段階に応じてねらいを明確にした安全教育を行うことは有効であると考えられる。

本校では、昨年度から2年間の計画で安全教育の充実を目指し、「危険を予測し、回避できる子の育成～生きる力を育む安全教育の充実～」という研究主題に基づき校内研究で取り組んできた。この主題は「全国学校安全教育研究会」「東京都学校安全教育研究大会」の大会主題である「自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる幼児・児童・生徒の育成－危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために－」を受けて設定したものである。

初年度は、安全教育に関する基礎研究、本校の児童の実態把握を行うことから研究を始めた。そして、それらを基に、各教科の学習に安全教育の視点を加えた授業実践を行った。初年度の実践により、「危険を予測する能力」を高めるための効果的な手だて等について一定の成果が見られた。しかし、児童が学んだ知識を活用し、自分で判断して行動するまでには至らなかった。それらの実態を踏まえ、2年目の研究を始めるにあたり、まず、本校独自の安全教育カリキュラムと領域別系統表を作成した。その上で、児童が学習内容を自分自身の問題として具体的に考える場を意図的に設けることで、学んだことを意志決定や行動選択につなげていけるようにしたいと考えた。

2 2年間の研究

平成28年度の主な取組

- ・基礎研究
- ・児童の実態把握
- ・実践事例の積み重ね
(年6回の研究授業を含む)



平成29年度の主な取組

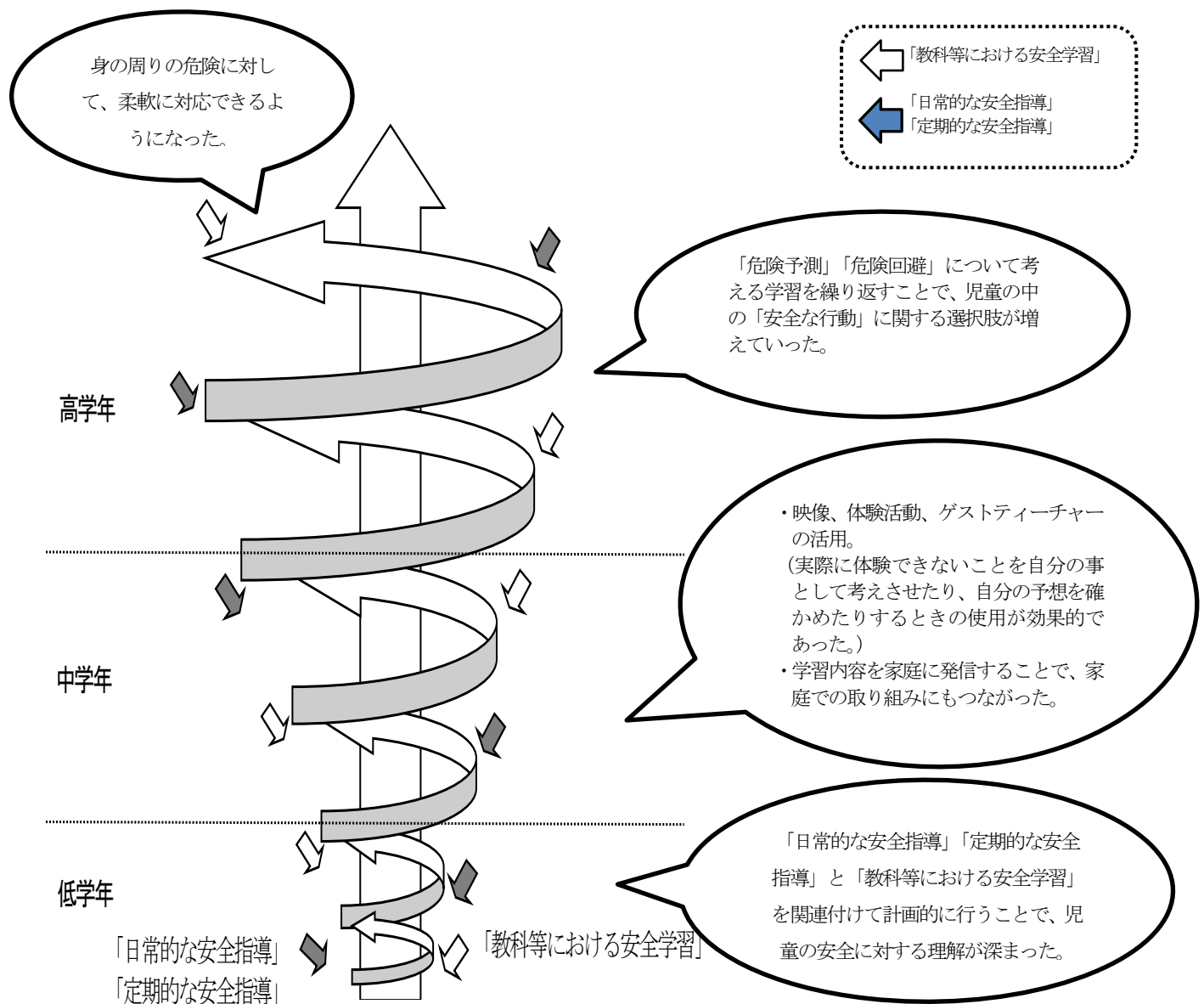
- ・「教科等における安全学習」「日常的な安全指導」「定期的な安全指導」の内容を関連付けた安全指導計画の作成
↳ 『平成28・29年度 研究集録』(別冊)
- ・「領域別系統表」の作成 → 資料1
- ・手だてを明確にした「教科等における安全学習」の実施
(年6回の研究授業を含む)
↳ 『平成28・29年度 研究集録』(別冊)
- ・生活指導部との連携
(避難訓練の内容検討・変更 → 資料2、
安全点検項目の変更、各種掲示物の作成
↳ 資料3)
- ・保護者・地域との連携

3 目指す児童像

低学年	安全に行動することの大切さを理解し、きまりを守って安全に行動することができる子 身の回りの危険に気付くことができる子
中学年	危険の原因を理解し、危険を予測して自ら安全に行動することができる子
高学年	様々な危険を予測し回避する能力を高め、身近な人々の安全にも気を配って行動することができる子

4 本校における安全教育の概要

ねらいを明確にし、児童の実態及び発達段階を踏まえて、「教科等における安全学習」と「日常的な安全指導」「定期的な安全指導」を意図的に実践していくことで、児童の学びの広がり・高まりが見られた。



【領域別系統表】

本校の安全教育の主な実践を領域別にまとめました。発達段階に合わせ、系統性を意識し、6年間を通して学習内容の定着を図っています。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
生活安全	(生活) 「学校の中の安全な過ごし方」	(生活) 「学校の中での安全な過ごし方」 (生活) 「公園での安全な過ごし方」	(総合) 「地域安全マップを作ろう」	(社会) 「けいさつの仕事と人々の協力」	(保健) 「けがの防止」 (社会) 「くらしを変える情報」 (国際) 「インターネットを使って調べてみよう」 「メディアについて考える」 (学活) 「SNS東京ノートを活用した学習」 (総合) 「ネットリテラシー—構成講座」 (学活) 「SNS東京ノートを活用した学習」 (学活) 「SNSの安全な使い方」	
交通安全	(生活) 「通学路の安全歩き方」 (行事) 「交通安全教室」	(学活) 「道路の安全な歩き方」 (行事) 「歩行者シミュレータ教室」	(学活) 「自転車の安全な乗り方」 (行事) 「交通安全教室」 (行事) 「歩行者シミュレータ教室」	(総合) 「自転車の安全な乗り方 （周囲の安全確認）」 (行事) 「自転車シミュレータ教室」 (学活) 「二輪車・自動車の特性」	(総合) 「自転車の安全な乗り方（点検・整備）」 (行事) 「自転車シミュレータ教室」 (保健) 「けがの防止」	(学活) 「自転車に乗ることの危険性と責任」
災害安全	(学活) 「火事や地震のときの避難の仕方と約束」	(学活) 「火事や地震のときの避難の仕方と家庭での備え」	(社会) 「消防の仕事と人々の協力」	(学活) 「地震後を生き抜くためにできること」 (社会) 「東京のまちを支えつづいた人 後継新平」	(国際) 「十秒が命を守る」 (体育) 「けがの防止」 (社会) 「自然災害とともに生きる」 (理科) 「台風の接近」「流れる水のはたらき」	(理科) 「ものの燃え方と空気」 (理科) 「大地のつくりと変化」 (学活) 「避難所について知ろう」 (社会) 「くらしの中の政治」
		(図書室)	(図書室)	(理科室)	(家庭科室)	(墓下校時)
			「もしも地震が起こったら」[学活]			
			「3・11をわすれない」「つながみ」を活用した学習「道徳」	「防災ノート」「地震と安全」を活用した学習「学活」		
						<災害時の避難方法・約束を知る>
						<災害に備えた取り組みを知り、自分もそれに関わらうとする意識をもつ>
						<災害のメカニズムや特徴、応急処置について知り、周囲の安全に配慮して行動する>

【避難訓練内容の見直し】

＜平成 29 年度 避難訓練年間計画＞

回	想定	想定時・場所	予告	避難方法及び対処事項
一 回	火災	授業中（2 校時） 近隣より出火 ★火災基本行動	有り	・ 第一次避難の仕方を確認する。 （火災避難の場合の方法、順路、集合） ・ 「お・か・し・も」の厳守をさせ、人数の確認と報告をする。
二 回	地震 （震度 5 弱 以上）	授業中（3 校時） 緊急地震速報後に地震発生 引き渡し訓練 ★地震基本行動	有り	・ 緊急地震速報が鳴ったら、速やかに安全な場所で身を守る姿勢をとる。 （「おちてこない・たおれてこない」の確認） ・ 余震が続くことを想定し、引き続き引き渡しを行う。
三 回	近隣で 事件発生	集団下校（校外班）	有り	・ 近隣校区域で事件発生の一報を受け、学校判断により集団下校という設定で行う。
四 回	地震	休憩中（中休み）	有り	・ 校舎内にいる児童は近隣の教室の机の下、校庭にいる児童は中央、体育館にいる児童は校庭へ、それぞれ避難する。（校舎にいる児童も、放送を聞いて校庭へ避難する。） ・ 一輪車・竹馬・ボールなどは、その場に置いて避難させる。 ・ 高学年は、近くにいる低学年の世話をするよう事前指導しておく。
五 回	不審者 侵入	授業中（3 校時） 実際に不審者侵入 侵入学級（6 年）	無し （該当学級、低学 年のみ有り）	・ 不審者侵入に対応する第一次避難を行う。 （避難と救出） ・ 誰がどこに駆けつける、もしくはどのように児童を避難させるのかを確認する。 ・ 暗号「荷物」を使用する。 ※学校 110 番は使用しない。 （世田谷警察書の協力を仰ぐ）
六 回	地震 火災	授業中（2 校時） 地震発生後、近隣より出火 丸山公園へ二次避難	有り	・ 第二次避難の仕方を確認する。 （地震避難の場合の方法、順路、集合） ・ 二次避難場所において、人数の確認と報告をする。
七 回	地震	授業中（4 校時） 緊急地震速報後に地震発生	無し	・ 緊急地震速報が鳴ったら、速やかに安全な場所で身を守る姿勢をとる。 ・ 第一次避難を行う。 ・ 4 年生は起震車体験を行う。
八 回	火災	授業中（2 校時） 給食室から火災	無し	・ 第一次避難を行う。（給食調理員を含む） ・ 予告なしの状況で、煙に注意し避難する。 ・ 東階段使用不可。
九 回	火災	授業中（3 校時） 中央階段付近から火災	無し （該当学級、隣接 教室のみ有り）	・ 第一次避難を行う。（煙に注意して避難する） ・ 放送施設が使えないという想定で避難訓練を行う。 （非常ボタンは押さない） ・ 中央階段使用不可。
十 回	地震	授業中（5 校時） 想定外の事態が発生	無し	・ 第一次避難を行う。（速やかに安全な場所で身を守る姿勢をとる） ・ 教員、児童ともにその場で放送の指示を聞き、避難経路を選択する。 ・ 予定した経路を使用できない場合は、状況を見て判断する。
十一 回	地震	始業前（登校時）	無し	・ 第一次避難を行う。 （これまで行った避難を徹底する） ・ 一年間の避難訓練の反省を行う。

※緊急地震速報のみの訓練あり。（1 学期 2 回、2 学期 2 回、3 学期 2 回）

実施日時は管理職が決める。

児童・教員ともに、その場の状況に応じて自分で判断して避難する力をつけるために、第 10 回の地震訓練を「避難時に想定外の事態が発生する」という内容の訓練に変更した。また、年 11 回の通常の避難訓練とは別に、年に 6 回、教員にも児童にも予告せずに行う緊急地震速報訓練を実施することとした。

○ 想定外避難訓練の流れ

- 1 地震発生を知らせる放送を流す。
- 2 児童はそれぞれの場所で第一次避難を行う。
- 3 放送の指示に従い、校庭への避難を開始する。
- 4 避難途中に使用不可の廊下や昇降口があった場合は、他のルートを探して避難を行う。
- 5 自身の避難経路について、振り返りを行う。



〔使用不可となった昇降口や階段の様子〕



〔教員、児童ともに、より安全なルートを選んで避難を行う〕

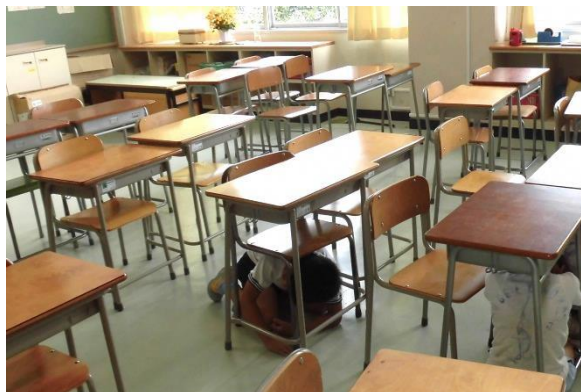


〔訓練後の振り返りの様子〕

○教えられたことだけを実践するのではなく、「想定外」のことが起こったときには、「その場で自分自身で考え、より安全なルートを選んで避難することが大切である」ということを意識させた。

○ 予告なし緊急地震速報訓練の流れ

- 1 緊急地震速報を流す。
- 2 児童は「落ちてこない、倒れてこない」場所を探して、身を守る姿勢をとる。
- 3 自分が避難した場所が、安全かどうか振り返る。



〔教室での様子〕



〔廊下での様子〕



〔プールでの様子〕

- 様々な場所で、地震発生を想定した訓練を繰り返した。
- 「特設する安全学習」においても、各学年で初めて使う教室を中心に、『落ちてこない 倒れてこない』場所を探し授業を行った。
- 地震発生時は「何かの下に入る」のではなく、『落ちてこない 倒れてこない』場所で頭を守る姿勢をとることが大切である」と意識させた。

〔28年度3月 予告なし避難訓練 結果〕

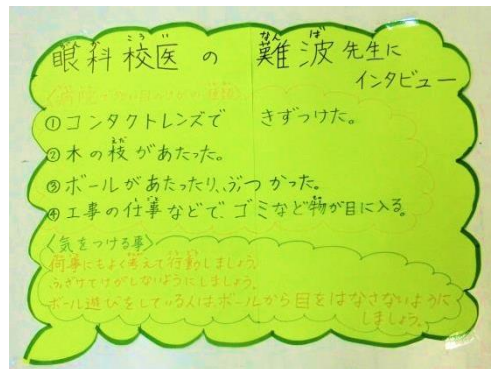
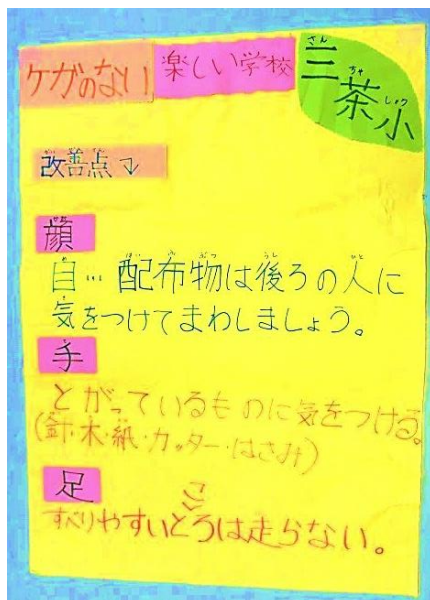
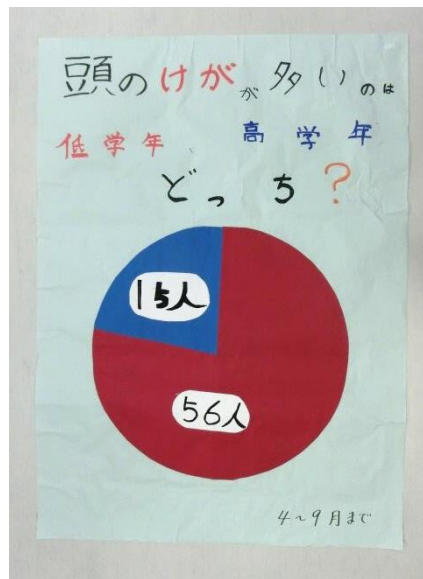
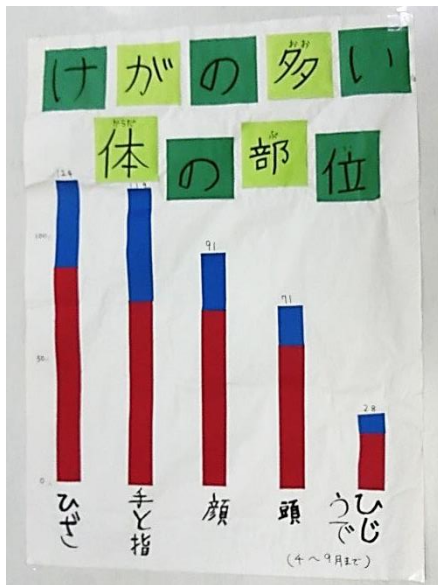
- ・ 緊急地震速報が鳴ったとき、自分で「落ちてこない、倒れてこない」場所を見つけて身を守る姿勢になることができましたか。

	自分で見つけられた	自分では見つけられなかった (友達と同じ所に移動した等)
1年	58人 (98%)	1人 (2%)
2年	64人 (100%)	0人 (0%)
3年	68人 (96%)	3人 (4%)
4年	67人 (96%)	3人 (4%)
5年	50人 (89%)	6人 (12%)
6年	46人 (96%)	2人 (4%)
低学年	122人 (99%)	1人 (0.8%)
中学年	135人 (96%)	6人 (4%)
高学年	96人 (92%)	8人 (7%)

【その他の取り組み】

資料3

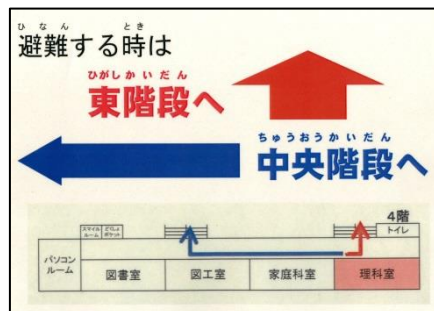
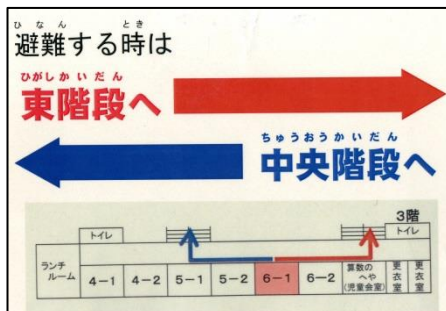
○ 保健給食委員会の発表



保健給食委員会の児童が、校内で発生したけがの状況についてまとめ、発表した。

体のどこの部位のけがが多いのかを、低学年と高学年別に色分けしてグラフにしている。また、けがの原因とその対策を自分たちで考えたり、校医の先生にインタビューしたりして、全校児童に発信した。

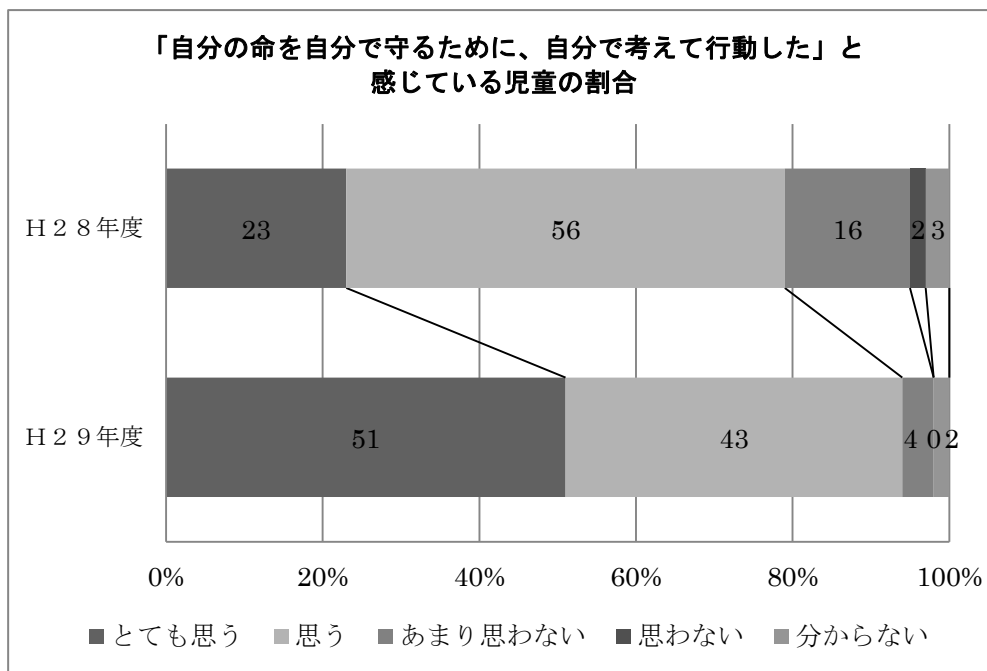
○ 各種掲示物の作成



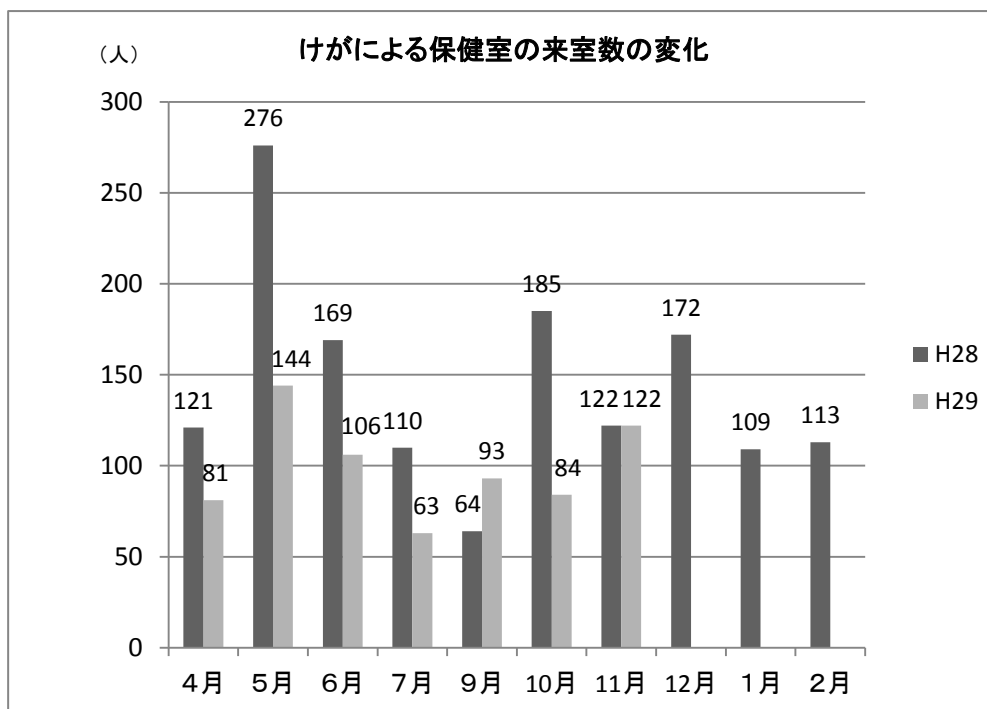
〔避難経路や避難姿勢が一目で分かるような掲示物〕

【児童の変容】

○ 児童の意識調査結果



○ 校内におけるけがの人数の変化



「自分の命を自分で守るために、自分で考えて行動することができたか」という問いに対し、「とても思う」「思う」と答えた児童の割合が、平成28年度から29年度にかけて79%から94%に増加した。また、「とても思う」と答えた児童が大幅に増加する一方、「思わない」と答えた児童は減少している。校内におけるけがの人数も、減少傾向にある。これは、「教科等における安全学習」及び「日常的な安全指導」「定期的な安全指導」において、様々な危険について自分の事として具体的に考える取組を繰り返したことにより、安全に行動できる児童が増えたことを表していると考えられる。